

VOL.3
2023

With AFRICA

Sophia Africa Weeks Project 2023



上智大学 Sophia University

もくじ

アフリカWeeks 2023 イベント紹介	3
「アフリカの今」を知ろう	4
アフリカの料理に触れてみよう	5
アフリカでの留学生生活を覗いてみよう	6
上智大学で開講されているアフリカ関連授業	7
上智大学×アフリカ	8
みんなの渡航体験記	9
「アフリカに学ぶ」	10
参考文献/クイズ答え	11



アフリカWeeksのキャラクターに就任しています！
「ハドゥ」ちゃんだよ～
名前の由来は、ハウサ語の「つなぐ」
みんな、よろしくね～

アフリカWeeks 2023 イベント紹介



5/15 (月) 17:20-19:00
(日本語: ハイフレックス)

【講演会】アフリカのスラムに学校を作る
～子どもたちの笑顔、命の輝き～

ケニアのスラム街キベラで学校を運営する早川千晶氏から
これまでの活動などについてお話を伺います。



5/20 (土) 13:00-15:00 (英語: 対面)

【セミナー】Youth Conference
アフリカ地域研究者と話そう

日本で活動するアフリカ出身研究者を囲んで
学術交流を図ります。



5/22 (月) 17:30-19:30
(英語: 対面)

【講演会】天空の王国レソトを
知っていますか?

南アフリカ共和国に囲まれた天空の王国レソトの
在京大使館から外交官をお招きして自然や文化、歴史
などについてお話しいたします。



5/23 (火) 17:30-19:30
(日本語: ハイフレックス)

【講演会】ルワンダで義足を作る
～再建に向けて～

義足、人道支援活動を地道に行ってきた女性、
ルダシングワ真美氏とパートナーのガテラ氏
からルワンダでの活動についてお話を伺います。



5/25 (木) 19:00-21:00
(日本語・英語: オンライン)

【セミナー】上智大学アフリカ研究紹介

上智大学で行われているアフリカ地域の研究や
実践型プログラムについてご紹介します。



5/26 (金) 18:00-20:00 (対面)

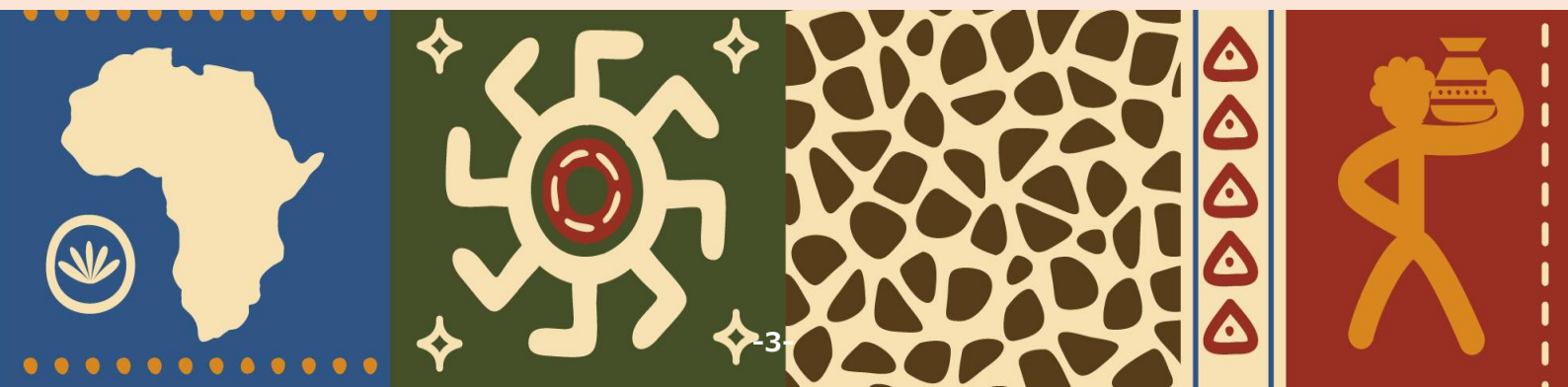
上智大学学生企画
アフリカン・ワークショップ
～コーヒーから知るアフリカ～

フェアトレードコーヒーを販売する
Warm Hearts Coffee Clubとのコラボ企画です。

5/15 (月) - 6/25 (日) 上智大学図書館1階

上智大学図書館 アフリカ関連書籍展示
Africa Art Exhibition

アフリカに関する本の紹介やアフリカ布、アクセサリなどの
展示を行っています。



「アフリカの今」を知ろう

みなさんはアフリカにどのようなイメージを持っていますか？
紛争や貧困などが強調されてきたことから、アフリカに対してネガティブなイメージを持っている人も多いかもしれません。

しかし「アフリカの今」を見ていくと、著しい経済成長や人口増加が起こる大きな潜在能力を持つ地域であることがわかります。ここでは、「アフリカの今」をクイズを通して見ていきましょう。

Q1 2050年の人口は？ (2023年現在 約13.8億人)

- ①20億人 (世界人口の約20%)
- ②25億人 (世界人口の約25%)
- ③30億人 (世界人口の約30%)

正解は②の約25億人です。2050年までに世界人口の約4分の1がアフリカの人口となる予測です。また、年齢の圧倒的な若さも特徴の一つ。中位年齢(0歳から並べてちょうど中間となる人の年齢)は日本は48.4歳。アフリカ全土では19.7歳です。

生産年齢人口(15歳から64歳までの働くことができる人口)に注目してみましょう。2023年現在、生産年齢人口のピークは中国。ピークを迎えた2000年ごろから減少しているものの、70%程度と高い生産年齢人口率を誇っています。また、2040年ごろにピークを迎えるといわれているのが、インドや中東の国々。そして、2050年ごろからピークを迎えるのがアフリカの国々です。生産年齢人口が増えれば経済発展につながると言われています。適切な雇用創出や食料確保といった課題を解決していく必要はありますが、「人口増加」という指標から、確実な経済発展が予測されています。

Q2 ケニアのOLが髪にかかる費用は日本円でいくら？

- ①1,000円程度
- ②2,000~4,000円
- ③5,000円~10,000円

正解は③の5,000円~10,000円です。ケニアのナイロビでは、一人当たりのGDPが3,000ドルを越えました。これは日本の1973年の数値に匹敵します。独特の髪質を持つことも多いアフリカの女性たち。ウィッグや編み込みといったヘアケアにお金をかける女性も多いのだとか。30年~40年前の日本の姿があり、日々経済発展が続いている国々と捉えると、より身近に感じられるのではないのでしょうか。



AFRICAN DEVELOPMENT BANK GROUP

アフリカ開発銀行グループ

引用：アフリカ開発銀行グループHPより

Q3 日本のアフリカ開発銀行の拠出金について出資比率は？

- ①世界3位
- ②世界4位
- ③世界5位

正解は②の世界4位です。加盟国の中で日本のアフリカ開発銀行(AfDB)の拠出金出資比率はナイジェリア、アメリカ、エジプトに続き第4位です。アフリカ開発銀行は、域内加盟国の持続可能な経済成長と社会的発展に、個別にあるいは共同で寄与することを目的として設立された多国間開発金融機関です。

日本は、81ある加盟国の一つで、AfDBとの関係強化及び国際社会における日本のプレゼンスの向上にも貢献しています。アジアの加盟国である日本、中国、韓国、インドを担当するアフリカ域外初の事務所は、東京の霞が関にあります。アフリカ開発銀行のアジア代表事務所長のご講義は上智大学の授業でも聞くことができます。本誌7頁の上智大学で受けられるアフリカ関連の授業紹介も参考にしてみてください。

Let's experience African dishes! From North to South アフリカの料理に 触れてみよう

身近な存在である「料理」からアフリカを感じられるよう、地域ごとに厳選してまとめました。

アフリカ大陸は広く、大陸の大きさは地球の地上全体の約20%。一言で「アフリカ料理」といっても地域ごとにそれぞれ特徴があります。日本にもアフリカ料理を提供する飲食店は多くあるので、ぜひ訪れてみてください。

※ここで挙げられている料理については代表的な国のみ記載しています。

クスクス

主に、北アフリカから中東で食べられており、「世界最小のパスタ」と言われています。



タジン鍋

テントや煙突のような形の蓋が特徴のモロッコ料理です。



ブリック

春巻きのような包み揚げで、一般的には中には卵やジャガイモなどが入っているチュニジア料理です。



チェブジェン

セネガルを代表する料理で、魚やその煮汁を使って作るピラフのようなものです。



ポシヨ(ウガリ)

トウモロコシを乾燥させて粉にしたもので、お湯を混ぜて練った食べ物です。



マトケ

(グリーンバナナ) じゃがいもに似た味です。ウガンダの料理はスパイスなどもなく優しい味がします。



ボボティー

南アフリカ共和国でお勧めしたいのはアジアからの香辛料の影響で誕生したボボティー。ミンチ肉にナツメグなどのスパイスを加えて混ぜ、アーモンドと卵の黄身をかけ、オーブンで焼いたものです。



コラム：昆虫食

皆さん、昆虫食をご存じですか？日本でも近年注目され始めていますが、その実情については詳しくない方が多いと思います。アフリカでは特に食料安全保障や栄養不足の解決の点で高い関心を得ており、世界銀行の報告書でも言及されています。アフリカにおいて、人口がますます増えることが予想されており、気候変動の影響を受けやすい状況において、安定した食料供給の実現に欠かせない存在になるでしょう。

<クイズ1> アフリカで食されている昆虫は何種類あるでしょう？
→答えは11ページをチェックしてね。



アフリカでの留学生生活を覗いてみよう

アフリカ（モロッコ）の大学に通っている日本人の学生さんにお話を伺いました。
 実際にインタビューしたからこそわかる一日の過ごし方を載せています。
 このページを通して、アフリカ地域を学生の視点から身近に感じていただけたら幸いです。

時刻	モロッコの大学に留学中の日本人学生	上智大生
7:00	8:00起床	7:00起床
9:00	ジョギング	1限 9:00~10:40
11:00	授業 10:45~11:30	2限 11:55~12:35
13:00	昼食	昼食
15:00	図書館で勉強	3限 13:30~15:10
17:00	授業	サークル Or アルバイト
19:00	図書館で勉強	
21:00	夕食	課題
23:00	勉強	就寝

Q. モロッコの大学へ留学しようと思った理由は？

A. 大学1年生のときにアラブの春を題材にして、レポートを書きました。それがきっかけで北アフリカに興味を持ちました。また、大学の提携校がモロッコにあったので留学を決めました。

Q. 休み時間の過ごし方を教えてください。

A. モロッコの都会は娯楽がありますが、私の大学の近くにはそういった場所はありません。基本的には勉強をしたり、友達と散歩したりしています。

入り口付近の事務所がある建物です。ここは事務室ですが、教室のある建物もほとんど同じ形をしています。



大学内のモスクの写真です。イスラム教徒がお祈りできる場所が構内にあります。



左がカフタというミートボールと卵のタジン鍋、右がクスクスです。どちらの料理も北アフリカで有名です。



上智大学サークル紹介

ASANTE PROJECT



私たちは、タンザニアの未就学児の教育支援をする上智大学公認の学生団体です。実際に現地に行き、自分たちの目でニーズを確かめて支援をしています。日本では、アフリカ布を使った雑貨販売などを通してアフリカの魅力を広める活動をしています。

<クイズ2> モロッコの人がよく使う交通手段は何でしょう？

①バス ②タクシー ③徒歩、自転車

→答えは11ページをチェックしてね。

上智大学で開講されているアフリカ関連授業

上智大学ではアフリカに関する授業が数多く開講されています。上智生の皆さんはこの機会に受けてみてはいかがでしょうか。

	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri
1		<ul style="list-style-type: none"> アフリカと開発：2030アジェンダと持続可能な社会づくり 	<ul style="list-style-type: none"> 環境と人間 		
2				<ul style="list-style-type: none"> LIFE AND CULTURE IN AFRICA 	
3	<ul style="list-style-type: none"> スワヒリ語初級1 スワヒリ語初級2 		<ul style="list-style-type: none"> アフリカ政治研究1 アフリカ政治研究2 アフリカ・ジェンダー論 	<ul style="list-style-type: none"> アフリカ研究概説 AFRICAN INTERNATIONAL RELATIONS 	
4		<ul style="list-style-type: none"> アフリカにおける開発援助とビジネス展開 		<ul style="list-style-type: none"> ポルトガル語圏アフリカ史 アフリカ社会経済論 POLITICS IN AFRICA 	
5	<ul style="list-style-type: none"> アフリカ国際協力論 	<ul style="list-style-type: none"> 現代アフリカ研究 			
6		<ul style="list-style-type: none"> グローバルシティズンシップ：アフリカと共に考える未来 	<ul style="list-style-type: none"> フランス語圏アフリカの社会と経済 		<p>赤は春学期、青は秋学期に開講されている授業だよたくさんあるね！</p>

～授業を受講した感想を集めてみました～

アフリカ国際協力論

実際にJICAで働かれている講師の方からアフリカでの国際協力についてお話を伺うことができ、自分の将来について考えるきっかけになります。

アフリカと開発：2030アジェンダと持続可能な社会づくり

アフリカを通じて、2030アジェンダという開発目標を考えることができます。私たちがアフリカに学ぶことは多くあり、私たち自身の行動と結びつけて未来を考える視点が身に付きます。

アフリカ研究概説

フィールドワークを通じてアフリカの人々がどのような生活をしているのかを身近に感じることができました。

アフリカにおける開発援助とビジネス展開

JICAや豊田通商、アフリカ開発銀行の講師の方から実際の活動について貴重なお話を伺うことができました。また、自分達でビジネスの案を考えるアウトプットの時間も楽しみながら考えることができました。

フランス語圏アフリカの社会と経済

主にアルジェリアやチュニジアなどフランス語圏アフリカの経済や社会について学ぶことができ、自分の関心のある国についてより深く知ることができました。

アフリカ社会経済論

アフリカで実際に行われている農業やビジネスについて現地での写真や体験をもとに理解を深めることができました。

上智大学 × アフリカ

上智生の皆さん！

実はみなさんの身近にアフリカ出身の方がたくさんいます。

今回は大学院生や、以前上智大学に留学していたアフリカの大学生に

インタビューしてみました。ぜひ、キャンパス内で交流の機会を持ってみてください。

総合グローバル学部2年の
朝川・長澤が
インタビューしました。



**Fr. Lokadi Pierre
Luhataさん**
(コンゴ民主共和国)



Ukirimuto Estherさん
(ルワンダ共和国)



Q 日本に何年住んでいるの？

A 3年です。

Q 専門は？

A 理工学研究科（化学分野）理工学研究科 博士
（上智大学とコンゴの大学を行き来して教えているよ。）

Q どうして日本に来たの？

A ①日本の文化について学びたいと感じたから。
②サイエンスの分野では日本はとても良い教育を提供しているから。
③神父だから上智大学に来たよ。

Q 日本は好き？ どのところが好き？

A ①良い人ばかりで、他者のことを尊敬する心があって真面目だと思う。でも日本人は最初、コミュニケーションをとるのが難しい。常に待っているから会話が弾まないみたいなの…。でもだんだん仲良くなっていくと本当に日本人は優しいと思う。
②組織やシステムがしっかりとしている。
③きれいで色々なものが整理整頓されている。

Q 日本の好きな場所は？

A 沖縄。海がいっぱいあるのが好き。熱帯なところがコンゴの気候と似ているな。

Q 将来の夢は？

A 日本とコンゴを繋ぎたい。自分は毎年コンゴと日本を行き来しているからそれぞれの文化を伝えることができるし、日本とコンゴは似ている部分もたくさんあると思うな。例えば、感情表現とか！

Q 日本人にメッセージはある？

A メディアからだともアフリカについて知ることはできない。なぜなら、メディアはアフリカの暗い部分しか伝えていないから。日本人がアフリカに来る機会がもっと増えますように。日本とアフリカが関係性を保つために一番大切なことは触れ合ったり関わったりすることだと思う。

Q どこで勉強しているの？

A University Tourism Hospitality and Business Managementで学んでいるよ。

Q 専門はなに？

A 経営学を学んでいるよ。

Q 将来の夢は？

A 私の夢は修士号をとって将来的にはホテルの経営をすること。ただ、実際に実現するまではすごく長い道のりであって、場合によっては違う業種で働くかも。

Q ルワンダの学生はどんな生活をしているの？

A ルワンダの学生の多くは、奨学金を使って国を出て、海外の大学で学んだことを自分の国の発展のために活かそうとする人が多い。また国内の大学に通っている人も学費を払うために朝から晩まで働きながらその合間に学校に通う人が多いよ。

**Estelle NGAH
EKANIさん**
(カメルーン共和国)



Q どこで勉強しているの？

A Catholic University of Central Africaで学んでいるよ。今はフランスに留学中。

Q 何について学んでいるの？

A 金融について幅広く学んでいるよ。

Q 将来の夢は？

A カメルーンの金融分野はまだ発展していない部分が多いから、将来は母国に戻って国の発展に貢献したいな。

Q 日本人の好きなところは？

A 何といっても人かな。日本人は礼儀正しくて何に対しても謙虚なところがあると思うよ。それに、外国に対してすごくオープンなところがあって、それは上智大学に通う学生の多くに通じるところかもしれないね。

みんなの渡航体験記

アフリカWeeksのメンバーやアフリカに渡航したことのある上智生にインタビューしてみました。
みなさんが渡航する際の参考にしてみてください。

質問内容

①渡航の目的②おすすめの観光スポット③現地で気を付けること④現地の人の性格⑤学んだこと

ウガンダ共和国

総合グローバル学部
2年
朝川 彩名



- 障がいを持った子どもたちのいる孤児院で活動していました。休日は教会に行ったり、観光地を巡ったり、結婚式や卒業パーティに参加したり現地の生活を思う存分楽しみました。
- カンパラ・セントラル・モスク
- 外を歩く時は携帯が見えないように。(盗難予防) 白のTシャツは赤土で汚れてしまうため、おすすめしません。また、水道水は口に入らないように気をつけること。
- フレンドリーで他人に対して優しく、たまに気まぐれです。気を使いすぎてダイレクトに言えない部分が日本人に似ている印象を受けました。
- ウガンダに来て、人の温かさや人との繋がり大切さを学ぶことができました。ウガンダの方々の助け合いの精神や何事も最後まで諦めない精神に心打たれました。



プロジェクト先での写真。
←

結婚式で仲良くなった親友たち。今も連絡を取りあう仲です。
→



キツネザルと触れ合える公園。とてもなついていてくれました。
←

滞在していた村から見た川。実際の景色は写真以上に感動的です。
→



マダガスカル

総合グローバル学部
2年
八木 紗良



- 環境保護とコミュニティ奉仕のボランティアをしていました。
- 国立公園 (マダガスカル固有種のキツネザルやカメレオンは必見)
- 治安や食べ物には十分気をつけること。貴重品の管理や薬の持参などの備えを調べておくこと。
- アフリカらしい陽気さもあるけれど日本人にも似ているような落ち着いた温かみがある人たち。笑顔の印象を受けました。
- この国固有の、自然の美しさ、人の温かさに触れ、人生観を変える旅となりました。マダガスカルだからこそ、日本とはかけ離れた出会いと発見がたくさんありました。

ルワンダ

総合グローバル学部
2年
長澤 里桜



- 高校生の時から関心を持っていたアフリカに足を踏み入れたいと思い、渡航しました。2週間の滞在でしたが、NPOの教育学園やJICA事務所など、多くの場所を訪ねました。
- アカゲラ国立公園
- ルワンダの人はカメラを嫌がる傾向にあります。渡航して街で写真を撮る時などは注意してください。
- 内向的で内気な人が多いように思います。虐殺という過去の歴史が関係しているのかもしれない。
- 今回は私にとって初めての海外渡航であり、成田空港にて離陸をしたときには感極まって涙が出てしまいました。日本から1万キロ以上離れたルワンダでは、日本と対極的な環境で暮らすルワンダの様々な方と繋がり合うことができたと感じています。



農村でお世話になった方との記念写真です。
←

農村の学校の様子です。
→



～アフリカ渡航前に特に重要な準備3選～

- 1. 予防接種**：厚生労働省検疫所が出している情報などを参考にし、病院で予防接種を受けておく必要があります。複数回接種が必要なものもあるので、渡航の際は早めに計画を立てましょう。
- 2. ビザの取得**：アフリカのほとんどの国ではビザが必要です。外務省のホームページなどでビザ申請の有無を確認し、早めに準備しましょう。
- 3. お金の確認**：アフリカでは現金しか使えない場所が多いため、現金の所持は必須です。(現地でキャッシングできるカードかどうかの確認やドルの所持も大切です。)

※ここに記載しているものはあくまでも必要最低限重要な準備です。他にも治安に関する情報を集めたり必要な薬や荷物を用意したり十分な準備をして渡航するようにしましょう。

〈クイズ3〉日本とルワンダの時差は何時間でしょう？

①7時間 ②9時間 ③11時間

→答えは11ページをチェックしてね。

「アフリカに学ぶ」

上智大学の実践型プログラム「アフリカに学ぶ」は、約2週間にわたってアフリカ諸国へ渡航し、現地の方々との交流を通して、アフリカの「今」を知り、アフリカ「から」学ぶプログラムです。これまで、4か国11回（オンライン含む）実施しました。2023年夏は、約4年ぶりにコートジボワールへの渡航が決定しています。ここでは、「アフリカに学ぶ」渡航経験者のみなさんがプログラムの魅力を紹介します。



「アフリカに学ぶ」に参加した 現役生の感想

法学部4年 太田 萌々さん（コートジボワール オンライン渡航）

このプログラムの魅力は、官民・日常のあらゆる角度からアフリカを知れることだと思います。アフリカ開発銀行や大使館といった公的機関への訪問や関わりを持つこと、そしてアフリカで事業展開する企業といった民間の視点からもアフリカを見つめられること、また、現地の学生との関わりの中で生の生活にも触れられる盛りだくさんのプログラムです。アフリカという地域に興味がある人も、様々なアクターでのキャリアを考えている人にとっても、よい考察の機会となるでしょう。

総合グローバル学部2年 長澤 里桜さん（カメルーン オンライン渡航）

現地の大学の学生や先生方とオンラインでつながり、また上智大学に留学した経験のある方ともお話をすることができ、顔が見える関係を作ることができたことが何よりも嬉しかったです。加えて、上智大学の卒業生の方でアフリカと関係のある企業で働かれている方や、国際協力機構（JICA）でアフリカ地域の案件を担当されている方からレクチャーを受ける機会もあり、国際協力や途上国開発に関心のある私にとって、将来の進路選択にとっても参考になるお話を聞くことができました。「アフリカに学ぶ」では、1人1人が探求テーマを立てながら参加をするため、他の学生の興味関心分野を聞きながら、お互いに学びを共有することができます。皆さんもぜひ、参加してみてください！

「アフリカに学ぶ」に参加された 卒業生の現在

2018年度文学部卒 山本 友亮さん （ベナン現地渡航/総合重工業メーカーご勤務）



Q 今、アフリカとの繋がりはありますか？

A 私は現在、ガスタービン部門の海外営業部に所属しており、アフリカでの新規の発電所の案件組成や既存の発電所のメンテナンス対応を行っています。案件を検討する段階から実際の運用サポートまで幅広いステージに関わっています。

Q 上智生へメッセージをお願いします。

A アフリカでビジネスを展開する企業は今後間違いなく増えていくはず。その先頭にいる人物が上智生の皆様であることを願っています。

参考文献

【アフリカの今を知ろう】

橋進, 2021, 『超加速経済アフリカ—LEAPFROGで変わる未来のビジネス地図』, 東洋経済新報社
African Development Bank Group - Annual Report 2021: Highlights
<https://www.afdb.org/en/documents/african-development-bank-group-annual-report-2021-highlights>2023年5月10日参照

【アフリカの料理に触れてみよう】

THE WORLD BANK, 2021, 「昆虫食と水耕栽培で食料安全保障、ビジネス、循環型経済を促進」
(<https://www.worldbank.org/ja/news/press-release/2021/12/08/insect-and-hydroponic-farming-could-boost-food-security-business-and-the-circular-economy>2023年5月10日参照)

PICK-UP! アフリカ, 2021, 「昆虫が食糧難解決の切り札? 昆虫栽培はアフリカで成功するか【コラム—Vol.9】」
(<https://www.pickup-africa.com/colum-vol-9/>2023年5月10日参照)

All About, 2019, 「クスクスとは? 実は北アフリカで生まれたパスタの一種だった!？」
(<https://allabout.co.jp/gm/gc/224738/>2023年5月10日参照)

外務省, 2023, 「アフリカ」 (<https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/oau/index.html>2023年5月10日参照)

SnapDish
(<https://snapdish.co/d/Ln09va>2023年5月10日参照)

【みんなの渡航体験記】

厚生労働省検疫所ホームページ, n.d., 「海外で健康に過ごすために」
(<https://www.forth.go.jp/index.html>2023年5月10日参照)

国立感染症センター トラベルクリニック, 2022, 『トラベラーズワクチン』

【アフリカに学ぶ】

上智大学, 2021, 「実践型プログラム『アフリカに学ぶ』を実施しました」
(<https://www.sophia.ac.jp/jpn/article/news/info/itd24t00000africa/>2023年5月10日参照)

クイズ答え

P.5 〈クイズ1〉 正解は約400種類です。

P.6 〈クイズ2〉 正解は②のタクシーです。少し意外だと思った人もいるかも知れません。モロッコのタクシーは日本と比べて安価で、特に乗合の場合は安く乗ることが出来るそうです。

P.9 〈クイズ3〉 正解は①の7時間です。ルワンダの方が7時間遅れています。ちなみに、ウガンダとマダガスカルとの時差は6時間です。



↑
ミュージカル
思わず真似したくなるようなダンスのステップや音楽を楽しみました。
(ウガンダ)



←
家の外で、自分の農場で収穫したマトケやグアバを売っている様子。
(ウガンダ)



←
農村に訪問した際、ごちそうになったお食事。
(ルワンダ)



↑
マダガスカル
の街並み。

キガリの託児所で走りまわる子供たち。
(ルワンダ)

→



～編集者たちの思い～

朝川彩名 (総合グローバル学部 総合グローバル学科・2年)
アフリカと日本の架け橋になりたいです。
そしてもっともっと多くの皆さんが、アメリカにいくような感覚でアフリカにも旅行するようになれば素敵だなと思います。

坂田凜子 (外国語学部 フランス語学科・3年)
アフリカに対してポジティブなイメージを持ってもらい、多くの人にとってアフリカをもっと身近な場所にしたいと思っています。

長澤里桜 (総合グローバル学部 総合グローバル学科・2年)
アフリカに関する授業を履修したり、アフリカと日本を繋ぐ学生団体の代表を務めたり、ルワンダに渡航したりと、これまでアフリカと接する機会を多く持ってきました。私が見てきた世界であったり、感じたことなどをアフリカ Weeksで発信し、みなさんと共有できたらなと思います。

竹本ジュリア (経済学部 経済学科・3年)
みなさん、初めまして。アフリカWeeksで全体企画広報を努めさせて頂きました竹本です。アフリカWeeksではアフリカに関心のある学生皆が集まり、皆様にアフリカ地域の魅力を伝えることを大切に様々な企画を考えました。皆さんがぜひ楽しんで頂けたら幸いです。

太田萌々 (法学部 法律学科・4年)
アフリカは地域によって様々な色があり、とてもエネルギーで素敵な地域だと感じています。今後、アフリカの国々と日本が、WINWINな関係として、相互発展できる関係になればいいなと考えています。

小林凜々 (総合グローバル学部 総合グローバル学科・2年)
アフリカをもっと知りたい！
と思えるような、そう一瞬でも感じる人が増えれば嬉しいです。そして、日本のことも発信していきたいです。

鈴木幸世 (法学部 法律学科・2年)
アフリカの理解や貢献への目的意識向上のためには現地へ。雑誌作成を通して、ますますアフリカに行きたい気持ちが強くなりました。またメンバーの皆さんのおかげで、オーナーシップも養うことができました。ありがとうございました。

【SNSもぜひチェックしてみてください】
Instagram



アフリカWeeksに関する情報や長期休みに毎年開催される「アフリカに学ぶ」の情報などが載っています。

今年度も、先輩方から受け継がれてきた雑誌企画を実施することができ、とても嬉しく思います。アフリカが大好きなメンバーが集い、「アフリカを身近に」「アフリカに対して発展的なイメージを持ってほしい」「アフリカの人々と共感し合いたい」そんな熱い思いを胸に本雑誌を作成してまいりました。1人でも多くの方々にこの雑誌が届き、アフリカに興味を持つひとつのきっかけとなるととても嬉しいです。そして最後に本紙作成にあたり協力して下さった全ての皆様に編集者一同、心より感謝申し上げます。



SOPHIA
AFRICA
WEEKS

